

# 巻頭の辞

ここに平成 30 年の神戸市立病院紀要を刊行いたしました。神戸市民病院はいうまでもなく診療、看護を実践する臨床の場であり、高度で安全な医療を展開することが私どもの大切な使命です。そのためには絶え間なく進歩する医学や医療技術を臨床現場に適切に導入することが求められます。さらに神戸市民病院はその進歩に自ら貢献することも期待されています。したがって、神戸市民病院はアカデミアの場でもなければなりません。

私たち医療者は日々の臨床で得た知見や創意、工夫などを論文や学会、研究会での発表を通して、発信する責務を有しています。若き医療者には現場における研鑽と同時に臨床研究能力を高めていただきたいと思います。このような学術活動は私ども市民病院の真の臨床レベルの向上をもたらすものでしょう。

本紀要はまさにこのような観点から編纂され、すでに半世紀以上の歴史を有しております。

職員の皆様には本誌から市民病院の学術活動の 1 年間の軌跡を読み取られて、明日からの診療、看護の糧にされますことを祈念いたします。

神戸市立医療センター西市民病院

院長 有井 滋 樹